

「名門復活」と「向上進取の精神と高い志の涵養」を目指し、全教職員による組織的取組を推進してきた、今年度の結果である。今年度の結果を検証し、改善を加え、次年度へ反映させ、学校全体で取り組んでいく。

赤文字は昨年度比で上昇した数値を示す。

30年度の数値目標		30年度成果	29年度 ←	28年度 ←	27年度	
①	国公立大現役合格者数	5名以上	3名	4名 ←	1名 ←	4名
②	難関位私立大（早慶上理）現役合格者数	5名以上	0名	2名 ←	1名 ←	6名
③	上位私立大（GMARCH等）現役合格者数	60名以上	37名	36名 ←	62名 ←	54名
④	日東駒専現役合格者数	100名以上	57名	57名 ←	83名 ←	93名
⑤	センター試験受験者数	210名以上	177名	204名 ←	196名 ←	167名
⑥	平日の家庭での予習・復習時間 1年生の平均	90分以上	60分	65分 ←	65分 ←	65分
⑦	平日の家庭での予習・復習時間 2年生の平均	120分以上	55分	60分 ←	65分 ←	60分

(1) 教育活動の目標と方策に関する評価 ※内部評価はA満足B概ね満足C改善が必要な3段階

項目	内部評価	成果と課題	改善策
学習指導 進路指導	1	<p>〔成果〕 学力スタンダードについては、定期考査を活用した学力調査を実施し、生徒の学習における弱点補強に役立て、学力の向上に関して成果があった。</p> <p>〔課題〕 国公立大学、難関私立大学等に対応した組織的取組がまだまだ不十分である。</p>	<p>国公立大学や難関私立大学に対応していくために、教科主任を中心として、各教科会で模擬試験結果や大学入試問題を研究し、成果検証をしっかりと行わせ、授業改善につなげていく。</p>
	2	<p>〔成果〕 6月・10月にケース会議、模擬試験後には分析会を実施し、生徒の状況の分析ができています。</p> <p>〔課題〕 進路指導部主導による、より一層個別の生徒情報の共有及び情報交換の場の設定。</p>	<p>年間行事計画に最初から位置づけ、学校全体の取組であることを意識させるとともに進路指導部主導による資料作成方法の提示及び精査を推進し、生徒一人ひとりの細かい指導に役立つ情報を交換する。</p>
	3	<p>〔成果〕 全教育活動を通してオリンピック・パラリンピック教育を推進していく。</p> <p>〔課題〕 オリンピックに関連したボランティアマインドの涵養。</p>	<p>全体計画に基づく組織的なボランティアマインドの育成及びオリンピック・パラリンピックに直接触れる機会を設定する。</p>
	4	<p>〔成果〕 養護教諭、SCによる生徒把握及び当該学年担任との情報の共有化が図れた。</p> <p>〔課題〕 組織的な取組を推進するため定期的な会議の設定。</p>	<p>SC、養護教諭、学年保健担当、学年主任等で組織された、教育相談連絡会を定期的開催する。</p>
	5	<p>〔成果〕 長期休業日中においては組織的に学校全体で取り組んだ。授業日の放課後や朝補習等も実施された。</p> <p>〔課題〕 放課後や朝補習は、学校全体で取り組むという認識には至っていない。</p>	<p>生徒のためという認識をもち、人によらない、教科主導の放課後や土曜日等における講習の組織的な推進。</p>
	6	<p>〔成果〕 図書委員会による文化祭展示発表を通じた読書活動の推進が進み、図書館利用率も上がる。検定受験は、国語科・英語科が中心となり、継続した指導ができています。</p>	<p>各教科から、読書活動の重要性を伝え、読書の習慣を身に付けさせる。検定受験は、引き続き推進していく。</p>

	7	各分掌、各教科の横断的かつ有機的な取組を通して学校組織全体でキャリア教育を推進していく。	A	[成果] 体験活動や保育所実習を通して、地域と密接に連携する等、キャリア教育の推進に努めた。 [課題] 高い志の育成。	進学意識や職業意識、地域貢献等キャリア教育の内容の充実を図る。
生活指導	1	頭髮の染色、化粧や装飾品等をさせない指導、時間遵守の指導、挨拶の励行を徹底し、基本的生活習慣を確立する。	B	不定期ではあるが、朝の登校時に頭髪・身だしなみ指導を生活指導部が中心となって実施。学校全体として組織的な指導の徹底を図った。地域の評判も向上してきている。	学校全体として取り組む意識を高めていく。
	2	授業規律をはじめとした学校生活のルール・マナーを遵守させるため、生活指導を全校体制で行う。	B	チャイム始業・終業を徹底し、規範意識の育成のための取組を実施、生徒の意識の涵養に繋がっている。	遅刻(平均)1日1学級一人未満を目標に、時間を守る習慣を徹底させる。
	3	いじめや体罰は絶対にさせない見過ごさない校内体制を構築、生徒や保護者が安心、安全な学校生活を保障する。	B	学校として最重要課題として全教職員で取り組んだが、継続した研修を実施し、教員の意識を高めていかなければならない。	今後も、緩めることなく、全教職員体制であたっていく。
特別活動 部活動	1	部活動を奨励し、1年生は全員が部活動に所属し、積極的に活動する指導体制を構築する。	B	1年生全員加入は定着、部活動加入率84.6%と年々上昇している。	学業と部活動の両立をさせつつ、積極的な活動を促進していく。
	2	学校行事や委員会活動を充実させ、社会性や帰属意識の育成を図るとともに学校内外に貢献する姿勢を醸成する。	A	生徒が中心となった実行委員形式の学校行事や委員会活動の充実が図られつつある。	校内での活動だけでなく、校外での活動に積極的に参加させていく。
防災教育 安全教育	1	災害から自らの命を守るために必要な「自助」の能力を身に付けさせ、社会貢献など「共助」の精神を育成する。	A	1年生の宿泊防災訓練を10月に実施、年4回の避難訓練を実施した。	次年度以降も「自助」「共助」の意識の醸成を図っていく。
	2	学校安全計画年間指導計画に基づき、登下校時の交通安全と災害等に対応した安全指導を推進する。	A	生活指導部を中心として、学校全体体制で指導を推進することができた。	次年度以降も取組みの充実を図っていく。
体力向上 健康増進	1	体育授業、部活動、学校行事等あらゆる機会を捉えて体力及び運動能力の向上を全校で取組む。	A	体育の授業の中で、工夫を凝らしながら、各種の取組みを推進した。	次年度以降も取組みの充実を図っていく。
	2	東京都体力テストの結果を踏まえ、普段運動をする習慣のない生徒に、効率的に運動量を確保する取組みを推進する。	A	工夫を凝らしながら、各種の取組みを推進した。	取組みの充実を図り、東京都体力テストの平均値を上回る項目を増やしていく。
	3	歯・口の健康づくり研修会など、健康づくりを推進するため、口腔衛生に関する指導を重点的に継続して取組む。	A	歯・口に関するアンケートを1年生に実施し、それに基づく検診を実施。5月・6月にフォロー検診を実施し、きめ細かい指導を個別に実施した。歯科ポスターコンクールに入選する。	次年度以降もきめ細かい指導を継続していく。
募集広報	1	ホームページの学校紹介分野を充実させる。学校から地域・保護者等への最新の情報発信に努める。	A	HPを刷新、更新しやすい環境を整え、タイムリーな情報を提供できた。	次年度以降も更新回数100回以上を目指し、取組みの充実を図る。
	2	本校を第一志望校として目指してもらえよう、部活動等の広報や、中学校との連携事業を推進する。	C	中学校と連携(出前授業、学校説明等)を行った。中進対男子の志望倍率1.17倍と低調。	男子にも魅力を感じる学校づくりを行い、工夫を凝らしながら広報活動を推進していく。
学校経営 組織体制	1	教科主任を設置し、教科内の教育活動の組織化、効率化を図る。	A	授業改善等、各種の取組みを組織的に実施した。	次年度以降も取組の充実を図っていく。
	2	各種会議や委員会を定期的に行い、課題解決を図る。	B	時間を区切りながら、各種の取組みを推進した。	次年度以降、適切な会議回数と、効率性も加味した対応を行う。
	3	教師、生徒における暴力行為や暴言、すべての体罰の根絶を図る。	A	学校として最重要課題として、全教職員で取り組んだ。	次年度以降も適切に実施していく。
	4	スクールカウンセラーとの連絡会を随時実施し、問題の共有化による課題解決を図る。	C	当該学年との連携はできていたものの、学校全体での共有が図れていなかった。	保健環境部を中心として学校全体体制で指導を推進する。
	5	家庭、地域と連携し、相互協力のもと健全育成を図る。	A	天体観望会を通して、公開講座、PTA、近隣の小学校との連携を実施した。	地域に開かれた学校づくりを推進する。
	6	経営企画室の業務進行管理を機能的に行い、都民の信頼に応える。	C	情報の共有を図る取組が行われたが、やや機能しない部分があった。	業務の進捗管理、連絡及びチェック体制の強化を図る。

(2) 重点目標と方策 ※内部評価はA満足B概ね満足C改善が必要な3段階

項目	内部評価	成果や課題	改善策
①	A	全教職員体制による生活指導の徹底。学校行事や地域と連携した規範意識の育成等、工夫ある各種取組みの推進による健全なる精神の涵養。	地域との連携を深め、校内体制を確固たるものとし、決して形骸化させない組織づくりをしていく。
②	B	家庭学習時間調査を実施。週末課題等、各教科の工夫による生徒の学習時間の確保を図るものの、自学自習習慣の確立に課題が残る。	学習オリエンテーションの充実。高い志の育成を推進する取組。
③	B	国公立大 3名 、難関私立大(早慶上理) 0名 、上位私大(GMARCH)合格者数 37名 、日東駒専合格者数 57名 、センター試験受験 177名 。	大学模擬授業、ガイダンスの充実、引き続き、全教職による進学指導を確立していく。
④	A	各学年によるケース会議、3回実施。	内容の充実、より一層の組織的取組みへ改善。
⑤	B	組織目標策定、中間総括実施。次年度へ改善策の反映。	国公立大学や難関私立大学へフタさせつつ、基礎の充実も図る。
⑥	A	教科主任会の活用による、組織的取組みの推進。長期休業日中における組織的講習・補習体制の実施。内容の濃い授業体制の構築。個別指導体制の充実による生徒の進路実現率の向上。	新大学入試システムを研究し、全教職員による進学指導を確立していく。
⑦	A	概ね目標を達成する講座の設定ができ、 75講座開講 、述べ人数 3458名 受講。	国公立や難関私立大をより意識した講習体制を確立させる。
⑧	A	説明会等の参加者、 2700名 以上を達成。HP更新回数100回を超える。	引き続き全校体制で学校PRを工夫し、更なる充実を図っていく。
⑨	C	国語科による読書活動推進を実施するものの、更なる工夫が必要。	形骸化させることなく、引き続き、検証・改善を行っていく。
⑩	C	遅刻防止キャンペーン及び遅刻指導を定期的実施したが、数値的には増加してしまった。 第1学年多遅刻者 0人 第2学年多遅刻者 11人	遅刻(平均)1日1学級一人未満を目標に、時間を守る習慣を徹底させる。引き続き、全教職員体制で指導の徹底を図っていく。
⑪	B	自転車事故及び自転車マナーに対する苦情もあり、今後も継続した指導が必要である。	自転車マナー等、交通安全教育の徹底と充実を図っていく。
⑫	B	スクールカウンセラーと教育相談制度を確立した上で、通常の教育相談と併せ、普通科高校における特別支援教育の推進を図ることにより、個別指導計画等に基づく指導・支援を充実させるとともに、定期的な調査等を行い、生徒の健康維持や心と体のケア、状況把握と対応、自殺防止に当たる。	引き続き、生徒の実態把握に努めるとともに、教育相談体制の充実を図り、時機を逸しない早期の対応を行っていく。
⑬	B	全教育活動を通してオリンピック・パラリンピック教育及びボランティアマインドの涵養を各教科・科目の授業を通して組織的に推進した。	引き続き、全教職員体制でオリンピック・パラリンピック教育を推進していく。

14	授業や体育的行事、及び部活動を通じて生徒の体力向上を図り、生涯にわたって心身ともに健康な生活を送ろうとする態度を育成するため、都統一体力テストを実施し、保健体育科を中として全校体制で体力、運動能力の向上を計る。	B	年間を通じ、授業や体育的行事、及び部活動等において、生徒の体力向上を図ってきた。	授業内での補強運動等を工夫し、更なる体力向上を目指す。運動系部活動を盛り上げ活性化させる。
15	生徒部活動加入率85%以上とし、関東大会、都大会への出場や、高文連のコンクール等への出場を実現する。また、第2学年においては「よさこいin府中」への参加を通じ、地域貢献の心と集団や社会の一員として、自主的、実践的な態度を育てる。	A	部活動加入率は目標をほぼ達成。関東大会への出場はあと一步。よさこいin府中への参加は地域からの評判も良く、生徒の育成に対して大きな成果を上げることができた。	部活動の活性化及び地域貢献の更なる充実を図っていく。
16	年間防災教育活動計画に基づき、宿泊防災訓練を含め計4回の防災避難訓練を実施する。被災後の共助について、地域と連携した指導、訓練を行い、主体的行動力を身に付けさせるとともにリーダーの育成を図る。	A	地域と連携を強化しながら、適切に実施することができた。今後とも充実を図っていく。	取組みとしては定着しており、形骸化しないよう、取組みの充実とリーダーの育成を推進していく。
17	体育祭・合唱祭での参観保護者数、文化祭での一般来場者数を合計4000名以上とする。	A	体育祭、文化祭、合唱祭の参観者、 4100名 以上達成	引き続き全校体制で工夫を凝らし、充実を図っていく。
18	校内美化を常に心がけ、毎日の清掃活動の他、各学期2回以上の大掃除を全校体制で実施し、衛生的な学習環境を整える。	A	委員会活動の中で、最も活発に活動しており、校内美化や学習環境の整備に大きく貢献した。	引き続き全校体制で工夫を凝らし、充実を図っていく。
19	家庭と学校の連携を充実するため、保護者会の適時開催及び内容の充実、保護者出席数の増大を図る。また、学年通信等、各種配布物について、極力ホームページに随時公開し、家庭と学校での情報の共有化を図る。	B	保護者会の出席は、まだ十分とは言えない状況にある。配布物やHPの更新等は、学校情報を伝えていくうえで大きく貢献した。	保護者との結びつきを、より強固にしていくため、各学年団の取組みや時機を逸しないHPの更新等、工夫と充実を図っていく。
20	各分掌等で年度当初の目標設定と月毎の進捗管理による組織力強化を図る。各種事務処理プランを活用し、経営企画室の業務進行管理を一層強固なものにする。ライフ・ワーク・バランス実現に向けて、在校時間把握などの取組みを推進する。	B	学校運営を推進していくうえで、業務進行管理等を適切に行い、業務のスリム化を目指すようになりつつある。	会議の定時終了、定時の退庁を目指し、時間の使い方を工夫する。
21	いじめや体罰、暴力行為の根絶のため、校内服務事故防止研修会を年間3回以上実施する。	B	研修会等は3回実施、会議毎に指導の徹底を図った。いじめアンケートも年3回実施、いじめのない安心な学校づくりを目指した。	定期的な調査、研修を実施し、いじめ・体罰防止の充実を図っていく。
22	個人情報の徹底管理を図るため、毎月クリーンデスクの日を定め、机上整理を確実にを行う。	B	最重要課題として研修会等の徹底を図った。	引き続き全校体制で工夫を凝らし、充実を図っていく。
23	生徒が安心して学業に専念できる学習環境を整備するため、校舎改築に向けた校内プランを検討する。	A	改築に向けた準備が進み、仮設校舎建築の準備が進む。周辺環境等整えていかなければならないことがあり、課題は多い。	都教育委員会と協議しながら、今後の府中高校の最善の在り方を見据え、検討を継続していく。